

矢崎財団が研究助成金 新材料分野など15人に交付

矢崎総業が設立した

矢崎科学技術振興記念財団は東京都港区の東京プリンスホテルで第35回研究助成金贈呈式を催した。財団では1983年以来、科学技術の発展を目的に研究を助成している。今回は新材料とエネルギー、情報の3分野を対象に15人に助成金が交付された。

獨創性が評価される一般研究助成は200万円、若手研究者が対象の奨励研究助成には100万円が贈られる。今年度一般研究助成には78件の応募があり、吉川浩史関西学院大学理工学部准教授の「金属有機構造体を利用したエネルギー材料の開発」をはじめ5件の研究テーマが選定。奨励研究助成では53件の応募があり、小林洋介室蘭工業大学大学院工学研究科助教の「よく聴こえる」拡声システムのための音声合成システムの構築」など10件が選ばれた。

また1千万円が贈られる特定研究助成には22件の応募があり、福島管史東北大学大学院工学研究科准教授の研究テーマ「高密度ナノ配線形成に資する金属含有ブロック高分子のグラフオ・ケミカルエピタキシー」に決まった。過去に同財団から助成を受けた研究者の中から優れた成果を上げた者に贈られる「矢崎学術賞」は忍久保洋名古屋大学大学院教授らが受けた。